

大阪府は医師多数県に位置付けられているものの、府内には医師の偏在（地域偏在、診療科偏在）が生じており、将来の地域医療を担う若手医師を確保する必要がある。

そこで、地域医療への理解や関心を深め、将来、医師不足地域や救急、周産期分野での勤務を志す医学生等の増加に向け、民間事業者と連携し、医師不足地域の拠点病院を巡るバスツアーや魅力のPR、ロールモデル集の作成等を実施。

主な取組み①：病院見学バスツアー

医学生を対象に、府内医師不足地域等の産科、小児科、救急科の拠点病院等（三次救急、周産期母子医療センター、小児中核病院・小児地域医療センター）を巡るバスツアーを12/23、24の2日間開催。

■ 1日目

参加病院：岸和田徳洲会病院、泉大津急性期メディカルセンター、大阪母子医療センター
参加者数：16人（医学生15人、初期研修医1人）

■ 2日目

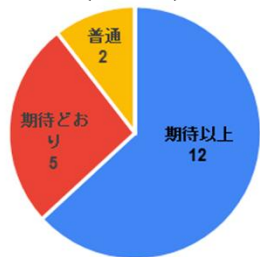
参加病院：中河内救命救急センター、大阪はびきの医療センター、りんくう総合医療センター
参加者数：6人（医学生5人、初期研修医1人）

<ツアー内容>

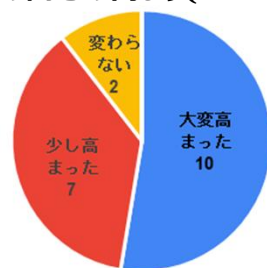
病院概要説明、診療科見学（救命救急センター、ICU、NICU等）、研修医との座談会 など

<アンケート結果>

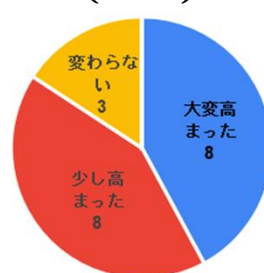
バスツアーの満足度
(n=19)



大阪府の救急・産科・小児科
への関心の高まり(n=19)



大阪府での勤務意欲の高まり
(n=19)



<主な感想>

- ・1日で3病院を回れるのは貴重な機会であり、各病院を比較検討することができた。
- ・説明会、院内見学、研修医や専攻医の先生方との座談会など、非常に充実した時間を過ごすことができ、改めて病院見学に来たいと思える病院もあった。
- ・自分からは見学に行こうと思っていなかった病院の見学をすることで、今までになかった視点を持つことができた。

※病院見学バスツアーについては、R8年度も引き続き実施予定



若手医師確保事業について

主な取り組み②：特設HPの開設、情報発信

民間事業者HP内に、府特設HPを開設し、府内医師不足地域の拠点病院や広域連携型プログラムの情報、ロールモデルのインタビュー動画・記事を掲載し、医学生や若手医師へメルマガ、SNS等で発信するとともに、地域医療支援センターの紹介も実施。

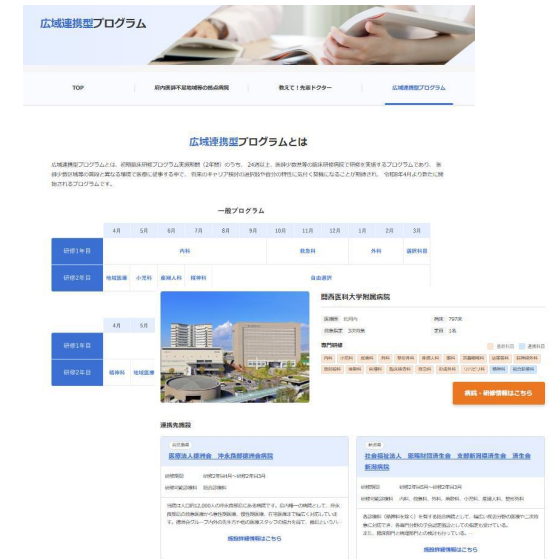
■ 特設HP構成



医師不足地域の拠点病院



ロールモデル集



広域連携型プログラム

その他、「大阪府ドクターバンク」の特設HP開設及び情報発信、「大阪府キャリア形成卒前支援プラン」に関する情報発信等、大阪府地域医療支援センターにて実施している事業の認知度向上に向けた取組を実施。